

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月20日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320011

研究課題名（和文） 科挙文献による明代中国の思想史と社会史

研究課題名（英文） Intellectual and Social History of the Ming Dynasty Based on the Documents of Civil Examination

研究代表者 三浦 秀一（MIURA SHUICHI）

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：80190586

研究成果の概要（和文）：

本研究では、明代における科挙の問題および解答の分析と、各省郷試の試験官に招かれた人びとの履歴や評判に関する精査とをおこない、その前者からは、模範解答の模倣から脱却して「自得」を強調する立場の文章が増加傾向にあったという現象を析出し、後者からは、試験官に対する高い資質の要求という全般的傾向のなかで、明代中期までは副榜挙人という会試の次点合格者が重用され、しかしその後は、進士登第者でありながらも地方の教官に就いた人士が尊重される、という趨勢の変化を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

In this research, we conducted analysis into questions and answers for civil examinations during the Ming dynasty and scrutiny to the reputation and history of examiners at provincial civil examinations. Result from this analysis, we found tends to move away from imitation of model answers to emphasize the self-understanding (zi-de). From that scrutiny, we clarified the change in the trend to put candidates who stood first on the list of unsuccessful candidates of metropolitan civil examination (fu-bang ju-ren) in a key position until the middle of the Ming dynasty, but then, to respect local instructors in schools with a qualification of successful candidates (jin-shi), in a general tendency request of high quality for the examiner.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2012年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：科挙・明代・思想史・社会史

1. 研究開始当初の背景

思想史学と社会史学それぞれの分野における先駆的な科挙関連の研究として、『四書大全』を始め明代後半に刊行された四書注に

分析を加え、科挙と四書学との関連性を思想的に論じた佐野公治『四書学史の研究』（創文社、1988年）と、「登科録」等の史料を活用して近世中国における社会的流動性を解明した何炳棣 *The Ladder of Success in Imperial China* (Columbia Univ. Press, 1962年、寺田隆信・千種真一訳『科挙と近世中国社会』平凡社、1993年) とがある。ただし何著には史料収集上の制約があるとともにその史料操作に対しても異論が出され、また佐野著はそもそも科挙文献それ自体を分析する研究ではないという限界があった。その後、中国国内の史料を閲覧することが比較的容易になるという研究環境の改善がみられると、その恩恵を受けた研究が登場する。綿密な史料調査と成熟した歴史学・社会学の理論とにもとづいて提出された、Benjamin A. Elman, *A Cultural History of Civil Examinations in Late Imperial China* (California Univ. Press, 2000年) がその代表であり、同著に刺激を受けて上梓された書物として、銭茂偉『国家、科挙与社会』（北京図書館出版社、2004年）がある。

こうして科挙研究は新たな段階に入り、併せて関連文献の整備もまた圧倒的ないきおいのもと進展した。研究上の必読文献である広義の登科録に関しては、従来、利用されてきた『明代登科録彙編』（全22冊、台湾学生書局、1969年）に加えて、中国寧波出版社が、2006年に『天一閣蔵明代科挙録選刊・登科録』、2007年に同『会試録』を公刊した。同『郷試録』の出版も予告され、そこで三浦は、明代科挙思想史研究の鶴成久章や明清政治制度史研究の大野晃嗣らとともに応用科挙史学研究会を結成し、「思想史的社会史的史料としての科挙答案に関する基礎的研究」を課題とする科研費の補助を、4年間、得て、南宋から明末までの科挙答案に対し量的と質的との両面から分析をおこなった。その結果、設問や答案といった特殊な史料からであっても、その時々の社会的・政治的・思想的な課題が反映されるという新たな事実を発掘することができた。たとえば明朝の科挙においては、嘉靖年間以降、論題では『性理大全書』巻六十五から六十九所収の一文からの出題が会試と郷試ともに増加し、一方、策題に関しては、とくに「性学策」の場合、元朝のそれを踏襲するような習慣的心性を克服する傾向が強まるのである。

2. 研究の目的

隋唐以降、中国における官吏登用試験として継続的におこなわれた科挙が、たんに人材選抜の制度としてだけではなく、中国の政治・社会・教育・文化等の諸分野とも相互に影響し合う国家統治上の「システム」として機能していたことは、周知の事柄である。さ

ればこそ、この「システム」としての科挙が中国近世士大夫の心性や思想とも関連性をもつことは当然とみなせるのであり、本研究は、そうした関連性の具体的・全体的な解明を最終目標とする。ただしこうした目的を達成すべく、本研究課題では、対象となる範囲を明一代に絞ったうえで、科挙関連の文献に関する近年の新たな史料環境に相応しい手法を用いてそれらに分析を加え、そのなかから科挙に関わった知識人すなわち試験官・受験生・挙業関係者等の現状認識や心理学観などを個別に抽出する。さらに、それらの個別認識を通時的あるいは共時的に関連づけ、明代の科挙と読書人の思想や心性との関係性を具体的に提示するとともに、その成果を、従来支持されてきた明代思想史に関する理解や社会史上の諸見解とすりあわせ、新たな思想史・社会史の構想へと結びつける。

3. 研究の方法

四庫全書系列の大型叢書や、『天一閣蔵明代科挙録選刊・登科録』、同『会試録』、同『郷試録』、『明代登科録彙編』を利用することにより、可能な限り多くの試録を統一的に取りまとめ、また個人文集からはそれらに散在する科挙答案を採集するとともに、以上の叢書に収録されない試録や挙業書、個人文集に関しては、日本国内の諸機関・中国や台湾の各図書館が収蔵する各種の刻本や抄本を調査し、蒐集につとめる。ただしその対象はメンバー各自の研究関心に依じて選定され、また史料の整理分析も各人が独自にすすめるのだが、ただしその成果に関しては、研究会の場において積極的に披露し合い、精度の向上をはかる。

4. 研究成果

成果の公開方法に関しては、その一部を各種の研究集会や学術雑誌において、口頭もしくは活字のかたちで示している。そのなかでも特筆したいのは、本研究課題に関わる研究者を中心メンバーとした応用科挙史学研究会の活動であり、3年間の研究期間のなかで、同研究会主催の研究集会を7回、ワークショップを3回開催した。研究集会では、中国における科挙文献研究の専門家である陳長文教授（中国山東・魯東大学）や、明清時代の思想史研究では牽引車的立場の、呂妙芬（台湾・中央研究院近代史研究所）・鄭吉雄（台湾大学：当時）・呉震（中国上海・復旦大学）の三教授を日本に招き、それぞれの研究成果を披露していただくとともに、各氏とそれぞれに意見を交換することで、明代の社会史や思想史に関する知見を拓けることができた。

また、平成20年10月には、本研究課題に

携わる4名の研究者が中国寧波で開催された「第四届科举与科举学学术研讨会」に参加して報告、その翌年9月の武漢で開催された「第五届科举与科举学学术研讨会」においても、3名のメンバーが報告をおこなった。それら以外にも、メンバー各自が日本や中国各地で研究を披露しており、本研究課題の国際性が、年々上昇していることが看取される。

以下に応用科举史学研究会の活動記録を附記する。ただしメンバーによる発表題目は、項目5の「学会発表」に掲載し、この項目では割愛した。

●研究集会

第7回「明代科举学各論－社会と制度篇」東北大学文学研究科（2010.9.24）：大野・陳長文（明代教官進士登科考論）・三浦

第8回「明代科举学各論－人物と文化篇」東北大学文学研究科（2010.9.25）：渡辺・鶴成・三浦

第9回「明清両学の個性性と共通性－台湾人研究者からの発信」東北大学文学研究科（2012.2.13）：呂妙芬（明清之際儒学研究心得）・鄭吉雄（論戴震与章学誠的學術因縁）

第10回「明清両学の個性性と共通性－日本人研究者からの発信」東北大学文学研究科（2012.2.14）：佐藤鍊太郎（明代朱子学与陽明学）・尾崎順一郎（皖派成立史攷）

第11回「明代科举史研究の応用局面－書院と大全」東北大学文学研究科（2012.9.18）：鶴成・三浦

第12回「清代士人における経学と科举」福岡市アクロス福岡（2013.1.12）：尾崎順一郎（清代乾隆年間における江南士人の経学理念－程廷祚から戴震へ）・水盛涼一（清朝後期の支配層－満蒙王公や八旗官僚と漢族科举官僚との関係を中心に）

【特別講演】呉震「鬼神以祭祀而言－関于朱子鬼神觀的若干問題－」

第13回「明代の政治・経済と科举」東北大学文学研究科（2013.3.29）：渡辺・大野・三浦

●ワークショップ

第4回「明清の科举と官僚社会」東北大学文学研究科（2011.8.04）：水盛涼一・三浦

第5回「明代科举関連文献研究」東北大学文学研究科（2011.8.11）：渡辺・大野・三浦

本報告書冒頭に記した「研究成果の概要」

は、主として、三浦が解明した思想的および社会史的事象であるが、そうした成果は、無論、上記各種の研究会における活潑な意見交換のなかで練り上げられたものである。研究分担者各人もまた同様に、専門家同士の研究会という場を活用しながら、優れた成果を生み出した。鶴成は、科举の答案に及ぼした陽明学の影響を個別人士に即して明らかにし、大野は、会試録に対する統計的な分析にもとづき、科举の試験官や事務官の政治的立場の時代的变化を読み取った。熊本は、明代の科举文献が宋代の政治的知見を如何に取り込んでいたのか、その事例を分析し、渡辺は、明代科举文献に示された元代以来の地理的問題を発掘した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計16件）

①三浦秀一、王門欧陽徳の学問とその会試程文、哲学資源としての中国思想、研文出版、pp.116-138、査読無し、2013.3

②鶴成久章、天真精舎と陽明門下、哲学資源としての中国思想、研文出版、pp.159-183、査読無し、2013.3

③鶴成久章、明儒的講学活動与歌詩－以王守仁的歌法为中心－、国際陽明学研究2、pp.230-245、査読無し、2012.10

④鶴成久章、明代科举制度与朱子学－論体制化教学所帶來的學習模式的變化－、哲学与時代－朱子学国際學術研討会論文集、華東師範大学出版社、pp.89-100、査読無し、2012.9

⑤渡辺健哉、金の中都から元の大都へ、中国－社会と文化－、第27号、pp.9-28、査読あり、2012.7

⑥熊本崇、宋神宗立太子前後－哲宗定策問題序説－、集刊東洋学、第107号、pp.68-92、査読あり、2012.6

⑦大野晃嗣、科举研究の現状と「科举学」、「共生」の空間－異文化の接触・交渉・共存をめぐる総合的研究－（京都府立大学）、pp.113-120、査読無し、2012.3

⑧三浦秀一、王門朱得之の師説理解とその莊子注、中国古典の解釈と分析、北海道大学出版会、pp.337-366、査読無し、2012.3

⑨鶴成久章、明代科举と陽明学－楊起元の制義を中心に－、福岡教育大学紀要、第61号

第一分冊、pp.17-33、査読無し、2012.2

⑩三浦秀一、副榜挙人と進士教職－明代における地方学官と郷試考官の一特徴－、集刊東洋学、第106号、pp.41-60、査読あり、2011.10

⑪鶴成久章、天一閣《明代登科録》大型蔵書之謎、科举与科举文献国際学術研究会論文集下冊、上海書店出版社、pp.325-340、査読無し、2011.7

⑫三浦秀一、郷試考官林光与明代中期的副榜合格者、科举与科举文献国際学術研究会論文集下冊、上海書店出版社、pp.198-213、査読無し、2011.7

⑬大野晃嗣、景泰天順兩朝の政權運営与科举－從景泰即位至英宗復辟－、科举与科举文献国際学術研究会論文集上冊、上海書店出版社、pp.334-349、査読無し、2011.7

⑭渡辺健哉、從宋到明科举考試用書の發展、科举与科举文献国際学術研究会論文集下冊、pp.55-67、上海書店出版社、査読無し、2011.7

⑮三浦秀一、明代科举「性学策」史稿、集刊東洋学、第103号、pp.41-61、査読あり、2010.5

⑯渡辺健哉、『羅氏雪堂蔵書遺珍』所収「経世大典輯本」について、集刊東洋学、第103号、pp.82-94、査読あり、2010.5

〔学会発表〕(計27件)

①三浦秀一、人法兼任の微意－明朝正徳嘉靖期における科举実施体制の展開とその理念、応用科举史学研究会第13回研究集会、東北大学文学研究科、2013.3.29、

②大野晃嗣、明代会試試験官に関する一考察－執事官を中心に－、応用科举史学研究会第13回研究集会、東北大学文学研究科、2013.3.29、

③渡辺健哉、元末明初の北京地区における交通路の整備、応用科举史学研究会第13回研究集会、東北大学文学研究科、2013.3.29

④三浦秀一、明末清初時期的《性理大全書》伝播与接受、清代理学国際研討会、シンガポール・シンガポール国立大学、2012.10.30

⑤三浦秀一、性理大全書受容史研究－序説と三つの断章、応用科举史学研究会第11回研究集会、東北大学文学研究科、2012.9.18

⑥鶴成久章、天真書院と陽明門下、応用科举

史学研究会第11回研究集会、東北大学文学研究科、2012.9.18

⑦三浦秀一、模倣と自得－万曆三十八年実施の科举から見た明代思想史の基層－、第57回国際東方学者会議東京会議、東京日本教育会館、2012.5.25

⑧鶴成久章、科举競争力から見た「明儒」の出身地域－地域の学力格差と思想文化－、第60回九州中国学会大会、福岡教育大学、2012.5.12

⑨三浦秀一、湛甘泉の二業合一論及其影響、書院文化的伝承与開拓、中国・湖南大学岳麓書院、2011.11.5

⑩鶴成久章、陽明門人と天真書院、書院文化的伝承与開拓、中国・湖南大学岳麓書院、2011.11.5

⑪三浦秀一、王門欧陽徳の学問及其会試程文、国際陽明学研究会、中国・余姚賓館、2011.10.31

⑫三浦秀一、担任郷試考官的「進士教職」、第八屆科举制与科举学国際学術研討会、中国・武漢大学、2011.9.25

⑬鶴成久章、万曆四十四年科場弊案始末考、第八屆科举制与科举学国際学術研討会、中国・武漢大学、2011.9.25

⑭大野晃嗣、明代会試考官初探－以《会試録》為中心－、第八屆科举制与科举学国際学術研討会、中国・武漢大学、2011.9.24

⑮渡辺健哉、明代書坊における挙業書の出版－劉氏慎独齋の活動を手掛かりに－、応用科举史学研究会第5回ワークショップ、東北大学文学研究科、2011.8.11

⑯大野晃嗣、明代会試の試験官に関する基礎的研究－会試録を材料に－、応用科举史学研究会第5回ワークショップ、東北大学文学研究科、2011.8.11

⑰三浦秀一、程文の代作と「二業合一」論、応用科举史学研究会第5回ワークショップ、東北大学文学研究科、2011.8.11

⑱三浦秀一、郷試考官に招かれた「進士教職者」－明朝嘉靖期の事例を中心に－、応用科举史学研究会第4回ワークショップ、東北大学文学研究科、2011.8.04

⑲鶴成久章、天一閣明代登科録之謎及日本不

伝明代登科録考、科举与科举文献国際学術研
討会、中国・寧波大酒店、2010.12.20

⑳三浦秀一、郷試考官林光与明代中期副榜合
格者、科举与科举文献国際学術研討会、中
国・寧波大酒店、2010.12.20

㉑大野晃嗣、景泰天順兩朝の政權運営与科举
—從景泰即位至英宗復辟—、科举与科举文献
国際学術研討会、中国・寧波大酒店、
2010.12.20

㉒渡辺健哉、從宋到明科举考試用書の發展、
科举与科举文献国際学術研討会、中国・寧波
大酒店、2010.12.20

㉓渡辺健哉、元明代における挙業書の展開、
応用科举史学研究会第8回研究集会、東北大
学文学研究科、2010.9.25

㉔鶴成久章、朱舜水の語った明代科举、応用
科举史学研究会第8回研究集会、東北大学文
学研究科、2010.9.25

㉕三浦秀一、郷試考官としての林光と王守
仁、応用科举史学研究会第8回研究集会、東
北大学文学研究科、2010.9.25

㉖大野晃嗣、明代中期の社会と監生—天順成
化年間を中心に—、応用科举史学研究会第7
回研究集会、東北大学文学研究科、2010.9.24

㉗三浦秀一、明代中期の郷試考官と「副榜举
人」、応用科举史学研究会第7回研究集会、
東北大学文学研究科、2010.9.24

〔図書〕(計1件)

三浦秀一、鶴成久章等、哲学遺産としての中
国思想、本文436頁(分担 pp.116-138:三
浦、pp.159-183:鶴成)、研文出版、2013.3

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

三浦 秀一 (MIURA SHUICHI)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80190586

(2)研究分担者

鶴成 久章 (TSURUNARI HISAAKI)
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：20294845

熊本 崇 (KUMAMOTO TAKASHI)

東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00153354

大野 晃嗣 (OONO KOUJI)

東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50396412

渡辺 健哉 (WATANABE KENYA)

東北大学・大学院文学研究科・専門研究員
研究者番号：60419984

(3)連携研究者(0)

研究者番号：